

平成30年度 学校マネジメントシート

【様式】

学校名（ 特別支援学校伊賀つばさ学園 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	一人ひとりの個に応じた教育が行き届き、家庭・地域に信頼される学校	
(2)	育みたい 児童生徒像	○児童生徒が、明るく元気に学校生活を送っている。 ○児童生徒が、個々の適性に応じた進路を実現でき、地域社会で生き生きと生活している。
	ありたい 教職員像	○児童生徒の理解を深め、本人の希望や個々の実態を踏まえた適切で継続的な指導・支援が実践できる。 ○人権感覚や専門性を高め、児童生徒それぞれの年齢やライフステージを考慮した指導・支援が実践できる。 ○チームワークを大切にし、児童生徒の成長を実感することで達成感や充実感が共有できる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒> 毎日楽しく学校に登校でき、友だちと仲良く、体験を通して多くのことを学びたい。</p> <p><保護者> 子どもたちの実態に即したきめ細かな指導・支援を展開し、地域の中で生活できる力を育成してほしい。</p> <p><地域企業・施設> 挨拶をはじめとした基本的な生活習慣の確立や自立した生活ができる力を育成してほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 子どもや学校の様子を詳しく知らせてほしい。</p> <p><他校種の学校> 特別支援教育に関する専門的知識の提供や研修支援をしてほしい。</p> <p><地域企業・施設> 児童生徒の教育活動の様子をもっと発信してほしい。</p>	<p><家庭> 教育活動に対する理解と協力、家庭での様子の情報共有。</p> <p><他校種の学校> 交流及び共同学習の推進、支援に係る継続的な情報交換。</p> <p><地域企業・施設> 体験実習の推進、卒業後の受け入れに係る体制整備。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな対応や、卒業後の進路に向けた取組などに一定の評価を得ているが、現状に満足せず更に充実していく必要がある。</p> <p>○定期的に避難訓練が実施されているが、自治会と連携した取組を検討していく必要がある。</p> <p>○教員がやりがいを感じながらも多くの会議や書類作成など日々の業務に忙殺されている実態がある。更なる会議の精選や業務改善を検討していく必要がある。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化とともに、教育的ニーズも変化してきており、より質の高い教育を実践するために、新学習指導要領を踏まえた専門性向上のための研修体制の充実が求められている。</p> <p>○多様な進学動機をもつ入学生が増加しており、卒業後を見据えた一貫したキャリア教育の充実と進路指導體制の更なる整備が求められている。</p> <p>○インクルーシブ教育システムの構築を進めるため、合理的配慮に関する理解を深めるとともに、交流及び共同学習の充実と学校からの円滑な移行に向けた効果的な整備が求められている。</p>
	学校運営等	<p>○伊賀地域唯一の特別支援学校であり、地域のセンター的役割を發揮するため、専門性の向上とともに教育相談体制の充実が求められている。</p> <p>○学校からの積極的な情報発信とともに学校関係者評価委員会をはじめ外部の意見を取り入れた学校運営の改善が求められている。</p> <p>○危機管理に対する組織としての対応力と教職員の意識の向上が求められている。</p> <p>○全教職員の意思統一や円滑な情報共有を進めるとともに教職員一人ひとりが生き生きと業務が遂行できるよう、風通しの良い職場環境づくりが求められている。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援体制の確立に向けて、学部ごとに主要テーマに基づいたキャリア教育と進路指導を進める。</p> <p>○特別支援教育のセンター的役割を發揮できる学校づくりを進めるため、医療・福祉等の関係諸機関との連携強化や教育相談体制を充実する。</p>
学校運営等	<p>○地域社会に開かれた学校づくりを進めるため、学校見学会や公開体験授業等の積極的な取組や組織的な学校諸活動の地域発信体制を整備する。</p> <p>○教職員が自ら学び生き生きと仕事ができる学校づくりを進めるため、達成感や充実感を共有でき風通しの良い職場環境と総勤務時間の縮減に取り組む</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考	
○学習指導	<p>○学部別主要テーマに基づいた基本的な生活習慣定着のための取り組みを推進する。</p> <p>小学部:主体的にあいさつや返事ができる力の育成</p> <p>中学部:自ら考え、主体的に行動する力の育成</p> <p>高等部:コミュニケーションの力を高め、相手の気持ちや立場を理解して、自ら行動できる力の育成。</p> <p>【活動指標】定期的な研修及び振り返りの実施(学部、学年、グループ別)</p> <p>【成果指標】「取組評価アンケート」で成果が</p>	<p>小学部:あいさつや返事において、児童に変化が見られたとするアンケート結果は79%。自らあいさつする、友だちにもするという姿が見られた一方、内面の変化はあったかもしれないが、態度や行動に変化が現れることがなかった児童もいた。</p> <p>中学部:作業学習の中で、各グループでリーダー、サブリーダーを設置し、できるだけ生徒が主体的に学習を進めていけるように支援してきた。マニュアルをもとにしっかりと進める姿が見られるようになった。また、年度末に行った生徒・職員アンケートの結果が</p>	◎	※

	見られたと回答した教職員の割合:80%以上	<p>らも、集中力や作業技術の向上が見られ、多くの生徒が自信を持って作業学習に取り組めるようになってきたことがわかる。準備や片付けでも、自主的に仕事を見つけて活動できる生徒が増えた。</p> <p>成果が見られたと回答した生徒の割合91%、職員の割合:76%</p> <p>高等部:月1回程度、職員で振り返りを行い、支援方法を検討した。あいさつ運動や適切な言葉遣いの指導等に取り組んだ。</p> <p>成果が見られたと回答した割合:82%</p>	
○教育課程	<p>○新学習指導要領を踏まえたキャリア教育プログラムを検討し、各学部で共有し、活用する。</p> <p>【活動指標】新学習指導要領を反映させた教育課程を検討し、キャリア教育プログラムと個別の指導計画との関連性を整理する。</p> <p>【成果指標】「取組評価アンケート」で、キャリア教育プログラムを活用できたと回答した教職員の割合:80%以上。</p> <p>○児童生徒のニーズに応えた交流及び共同学習を行う。</p> <p>【活動指標】事前研修や情報交換による円滑で効果的な交流の実施。</p> <p>【成果指標】「取組評価アンケート」により、「概ね満足」と回答した本人及び保護者の割合:80%以上。</p>	<p>○新学習指導要領を元に教育課程の検討および編成を行った。キャリア教育プログラムについて、障がい種別間・学部間に渡る目標の見直しをはかった。</p> <p>キャリア教育プログラムの目標は、その児童生徒の生き方を重視するものとして、個々の成長を意識した授業の指導案を目指しており、この観点において100%反映されており、個別の指導に生かすことができた。</p> <p>○交流及び共同学習実施率</p> <p>居住地校交流 98%</p> <p>学校間交流 100%</p> <p>本人、保護者は「概ね満足」との回答87%。</p>	◎ ※ ※
○進路指導	<p>○社会体験学習、校内実習、現場実習等を計画的に実施し、成果や課題を日々の学習活動の中に反映する。</p> <p>【活動指標】入学後からの計画的で系統的な進路指導の推進</p> <p>【成果指標】「取組評価アンケート」により、日々の学習に成果や課題を反映できたと回答した職員の割合:80%以上。</p> <p>高等部生徒の希望に沿った進路先の決定。100%</p>	<p>○生徒本人が卒業後のイメージや見通しが持てるように、また実習先でより細かいところまで見てもらって評価をもらうために2年生の企業での現場実習の期間を長くした。</p> <p>実習後の振り返りや報告会で成果や課題を共有し、学校生活で目標として生かすことができた。</p> <p>校内実習の外部からの請負作業は生徒の意欲につながっている。</p> <p>○成果や課題を反映できたと回答した職員の割合:100%</p> <p>○希望に沿った進路先の決定:100%</p>	◎ ※
○生徒指導	<p>○自主通学生徒に対する交通ルールと公共のマナーの習得の取り組みを進める。</p> <p>【活動指標】定期的な登下校指導の実施</p>	<p>○学期初めの1~2週間は毎日、それ以降は週1回程度、定期的に登下校時の指導を実施した。交通安全ルールや公共マナー</p>	◎ ※

<p>○危機管理</p>	<p>○危機管理マニュアルを活かしたリスクマネジメントの機能的な体制づくりを目指す。</p> <p>【活動指標】避難訓練、不審者対応研修の実施:年間4回 危機管理マニュアルの見直し:年間2回 コンプライアンスミーティングの実施:年間1回以上。災害時備蓄品の保管状況の確認を行い、避難場所として地域住民に認知されるよう広報する。</p> <p>【成果指標】年3回の危機管理委員会の実施「取組評価アンケート」で、危機管理意識が向上したと回答した職員の割合:80%以上。</p> <p>○地域防災拠点の機能の充実を図る。</p> <p>【活動指標】学校防災の課題解決に向けて、予算の範囲内でできることを実践する。</p> <p>【成果指標】校舎のガラス飛散防止対策を行う。(校長室・事務室など)児童生徒や教職員を守る防災品の充実。 美旗市民センターと、防災備蓄品の保存場所や役割分担などに関して情報共有を行う。</p>	<p>○リスクマネジメントの機能的な体制づくり 不審者対応訓練、救命講習、防災備品活用訓練、避難訓練(起震車/煙体験)、危機管理マニュアルに関する事例報告会、学校防災マニュアルの作成(継続中)、地域防災コーディネーターと連携した防災グッズの展示などの取り組みを行った。</p> <p>取組を通しての危機管理意識のアンケートを採った結果、「危機管理意識が向上した」「少し向上した」との回答、93.7%(1月22日現在回数48名)。</p> <p>○地域防災拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラス飛散防止対策は少しずつ対応を進めている。 ・児童生徒に個人備蓄を呼びかけ、7割以上の児童生徒が個人備蓄をしている。 ・非常用の飲料水は、児童生徒だけでなく、教職員分も合わせて購入保管している。 ・美旗市民センター街づくり協議会と避難所に関わる話し合いを行い、3次避難所としてのつばさ学園の大枠を決めた。また、名張市総合防災訓練において、つばさ学園への避難になるまでのおおよその流れについて確認した。(2次避難所の美旗市民センターで受け付けを行い、センターに入れなくなった場合、つばさ学園に行くことになる。) 	<p>◎ ※ ◎ ※</p>
<p>○組織運営</p>	<p>○会議等の効率的な運営や総勤務時間の削減に取り組み、教職員が自ら学び、生き生きと仕事出来る学校づくりを目指す。</p> <p>【取組指標】週に1回(金曜日)は会議、研修のない日とする。 会議のペーパーレス化とデータベース化を図り、開催時間70分以内をめざす。 定時退校日を月1回以上設定する。 年休取得実績の増加(前年度比):1日増加 時間外勤務時間の削減(前年度比):2%</p>	<p>○ペーパーレス化、データベース化した会議については、ほぼ70分以内で終了できている。データベース化により、書類を一元化し、スムーズな業務運営につながるようにすることが今後の課題である。</p> <p>○定時退校日の設定は100%の実施。</p> <p>○時間外勤務時間の削減は概ね改善した。年休取得も順調である。</p> <p>○校務にやりがいを感じている割合は89%である。会議時間の短縮により、</p>	<p>◎ ※</p>

	<p>【成果指標】「取組評価アンケート」により 改善が実感できた教職員の割合： 80%以上 仕事にやりがいを感じると回答した割合：90%以上</p>	<p>改善が実感できた教職員の割合は60%であった。学部会等での時間短縮が今後の課題である。 ○やりがいと感ずる割合は90%。</p>	
--	--	---	--

改善課題

- ・ 職員のスキルとして、個々の児童生徒の特性に合わせる意識を持ち、児童生徒を先導するのではなく、見守り支援する観点を大切にすることが求められている。
- ・ 公開体験や学校見学会、公開講座等に多くの参加者があるなど、地域からのセンター的機能に対する期待は大きい。地域との連携を図りつつ、いっそう内容の充実が求められている。
- ・ 卒業後の就労へ向けて、新規開拓やサポート体制の充実が求められている。学校と地域での一層の連携強化が求められている。
- ・ 職員満足度調査からは、「業務の非効率さと配分」「総勤務時間」「力量に応じた研修体制」に対する満足度が低い結果となった。生き生きと仕事ができる学校づくりに向けて、これまで以上に会議の精選や授業の空き時間の確保など、更なる見直しを進める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ インクルーシブ教育・合理的配慮・人権教育という3つの柱を中心として、個々の特性を尊重した取組を推進していくことが重要である。 ・ よりよい地域連携のためにも、地域および学校に対して、本校の取組状況や活動内容について情報発信していく必要がある。 ・ 防災活動や学校行事を通して、地域住民や関係機関等と、より一層連携を図っていくことが望まれる。 ・ 卒業後を見据えて、現場実習・校内実習・日々の生活改善の連携をすると良い。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高品質な授業を児童生徒に提供するため、外部専門家の協力を得て全ての学部で授業公開及び授業研修を実施し、授業改善に取り組む。 ・ 肢体不自由児童生徒に対しての系統的な支援ができるよう、授業改善に取り組む。 ・ 計画的で系統的な進路指導の推進へ向けて、校内実習・現場実習と日常生活指導が連携できるよう、授業改善に取り組む。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校説明会や公開体験授業の実施回数を増やして、地域の児童生徒、保護者、学校関係者に本校の教育活動を丁寧に発信をしていく。 ・ 教職員同士が共に学び合い高め合うよう、校内研修を充実させ、教職員の専門性向上を図る。 ・ 会議の時間短縮に向けて、引き続きペーパーレス化を推進するとともに、授業の空き時間を設定することにより、校務や教材研究の時間を確保し、総勤務時間の縮減を行う。